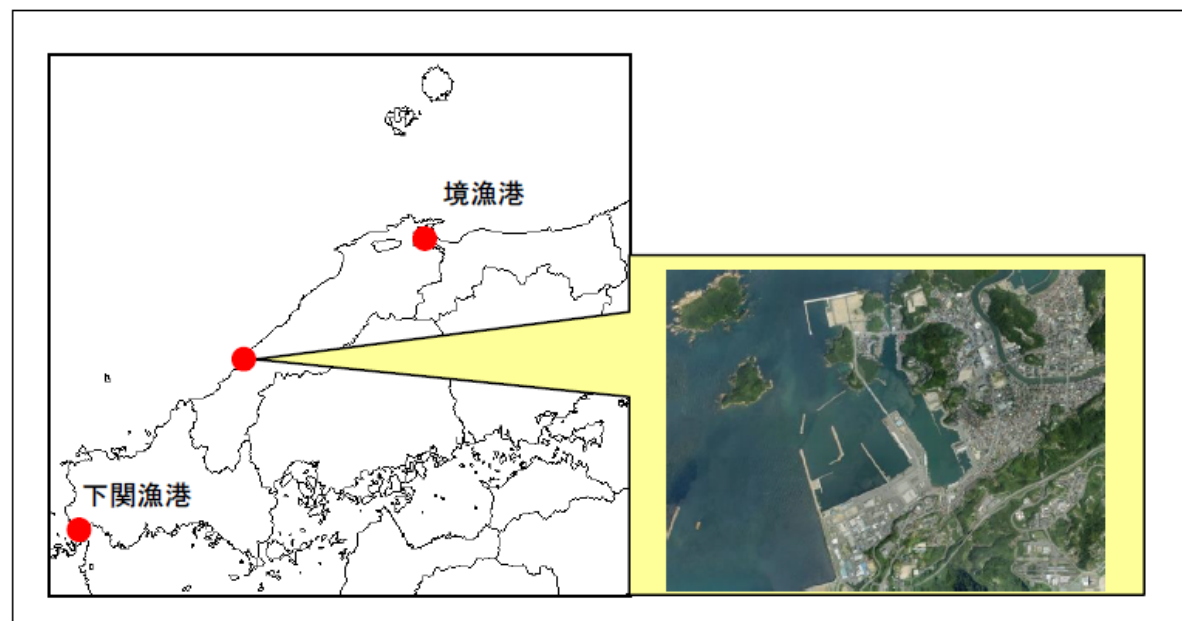


浜田漁港周辺エリアを取巻く現状について

(1) 浜田漁港の位置と交通

- 山口県の下関漁港と、島根県と鳥取県の県境にある境港漁港のほぼ中間点に位置。
- 天然の良港に恵まれ、山陰有数の漁港となっている。
- 浜田漁港周辺には浜田港もあり、水産関係の工場以外にも内外貿易関係の企業が多く立地している。
- 浜田漁港は、古くは北前船の寄港地として発展し、現在も県下唯一の特定第3種漁港に位置づけられ、沖合底曳網・まき網・定置網・一本釣りなど多様な漁業が展開されている。
- 浜田道の整備により、広島からの交通アクセスが大幅に短縮された。
- 浜田道インターチェンジまで車で約10分と近く、平成30年3月に高速道路と直結する臨港道路が整備され、更に利便性が高まっている。
- 国際貿易港である浜田港は、環日本海の重要な玄関口となっている。



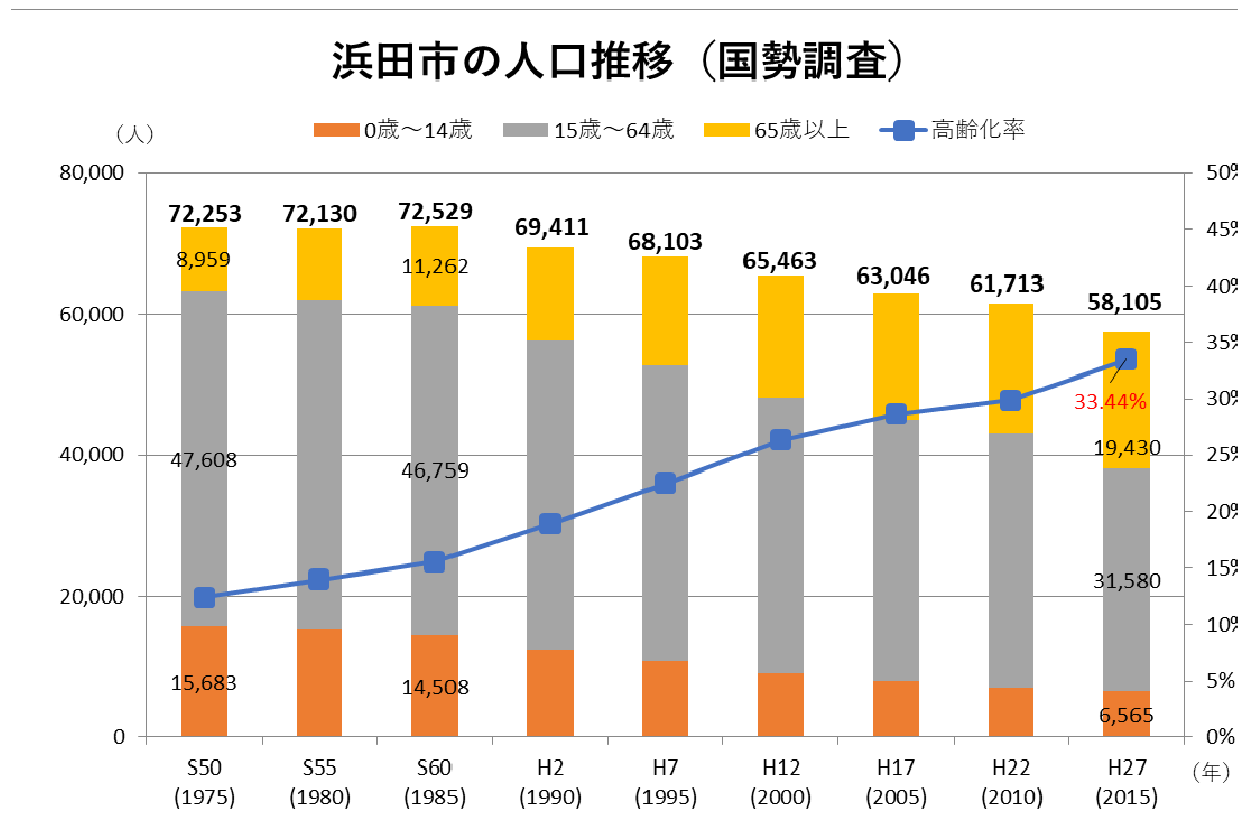
現状と課題について

(1) 浜田漁港の位置と交通



(2) 浜田市の人口推移

- 浜田市の総人口は、近年の国勢調査においては、昭和60年（1985年）の72,529人をピークとし、その後は年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の減少により、人口減少が続いている。
- 高齢化率も急激に伸びており、平成22年（2010年）には29.9%になっている。
- なお、住民基本台帳に基づく最新の人口は54,328人、高齢化率36.23%となっており、人口減少と高齢化の進行が依然として継続している状況が伺える。



※参考

住民基本台帳（平成30年12月現在）

人口 54,328人
（うち、外国人608人）

65歳以上人口 19,682人
高齢化率 36.23%

生産年齢人口（15～64歳）
28,334人

15歳未満人口 6,312人

現状と課題について

(3) 浜田市の産業構造

- 浜田市の就業人口の構造を右図に示す。浜田市では漁業就業人口は271人と1.0%にとどまるが、浜田漁港での水揚額は56.5億円（平成30年）となっており、地域の基幹産業となっている。
- 第二次産業の中核を占める製造業には、3,287人が就業している。製造業は、浜田漁港で水揚げされる原料を使用した水産加工品を製造する食品製造業が主体となっている。
- 2013漁業センサスでは、水産加工場50工場、816人の就業者であり、水産加工業は地域の基幹産業の一つとして位置づけられている。

(単位:人)

産業分類	就業人口		
A 農業, 林業	1,742	6.2%	第一次
うち農業	1,604	5.7%	
B 漁業	271	1.0%	2,013
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	24	0.1%	第二次
D 建設業	2,519	8.9%	
E 製造業	3,287	11.6%	5,830
F 電気・ガス・熱供給・水道業	286	1.0%	第三次
G 情報通信業	181	0.6%	
H 運輸業, 郵便業	1,354	4.8%	
I 卸売業, 小売業	4,284	15.2%	
J 金融業, 保険業	546	1.9%	
K 不動産業, 物品賃貸業	312	1.1%	
L 学術研究, 専門・技術サービス業	681	2.4%	
M 宿泊業, 飲食サービス業	1,437	5.1%	
N 生活関連サービス業, 娯楽業	1,099	3.9%	
O 教育, 学習支援業	1,418	5.0%	
P 医療, 福祉	4,665	16.5%	
Q 複合サービス事業	475	1.7%	
R サービス業(他に分類されないもの)	1,593	5.6%	
S 公務(他に分類されるものを除く)	1,715	6.1%	20,046
T 分類不能の産業	368	1.3%	368
15歳以上就業者人口 計			28,257

■水産加工場 営んだ加工種類別工場数

飼肥料	1		
ねり製品	計	5	
	かまぼこ類	5	
	魚肉ハム・ソーセージ類	1	
冷凍食品	計	3	
	魚介類	3	
	水産物調理食品	1	
素干し品	計	4	
	するめ	4	
塩干品	計	40	
	干しいわし	1	
	干しあじ	22	
	干しさば	14	
	干しかれい	35	
	干しほっけ	1	
	干しはたはた	3	
	その他	26	
	煮干し品	計	1
		その他	1
塩蔵品	計	5	
	塩蔵いわし	1	
	塩蔵さば	3	
	塩蔵さけ・ます	1	
	その他	1	

くん製品	計	17		
	塩辛類	小計	3	
		いか塩辛	3	
		その他	1	
	水産物漬物	1		
	その他の食用加工品	小計	14	
		水産物つくだ煮類	小計	1
			その他	1
		調味加工品	小計	12
			乾燥・焙焼・揚げ加工品	5
その他			8	
その他の調味加工品		3		
その他	2			
生鮮冷凍水産物	計	8		
	冷凍いわし類	4		
	冷凍まあじ・むろあじ類	4		
	冷凍さば類	4		
	冷凍いか類	4		
	その他冷凍魚類・冷凍水産物類	4		
	冷凍すり身	小計 1 その他 1		

工場数合計(実数)	50
従業者数	816

(4) 浜田市の観光動向

- 島根県の観光入込客は、県東部を中心に推移し、県西部への波及は少ない。
- 浜田市の観光入込客数は、平成25年以降減少傾向。この5年間で15%の減少であり、特に「しまね海洋館アクアス」、「しまねお魚センター」、「ゆうひパーク三隅」への入込客の減少が目立つ。

	合計	主な観光ポイント					
		石見海浜公園		豊ヶ浦	浜田海岸	お魚センター	ゆうひパーク三隅
			うち、アクアス				
H25	1,845,435	599,510	374,575	90,660	75,840	176,714	128,493
H26	1,760,552	584,620	373,525	81,320	76,140	147,638	119,828
H27	1,825,247	614,240	366,274	83,250	81,480	178,076	126,652
H28	1,713,068	600,550	364,003	78,210	76,130	154,454	122,686
H29	1,554,078	520,250	295,342	76,350	72,010	129,837	88,099
H25/H29	84.2%	86.8%	78.8%	84.2%	94.9%	73.5%	68.6%

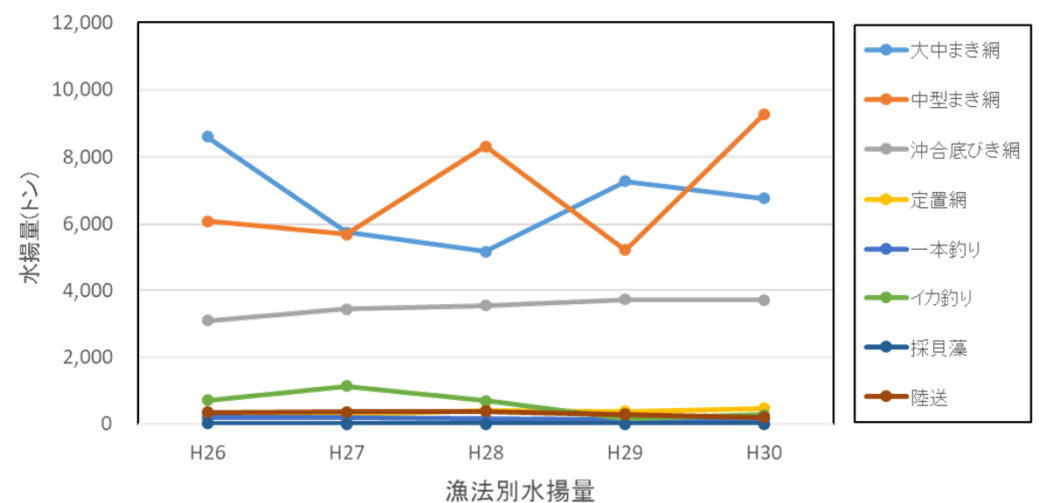
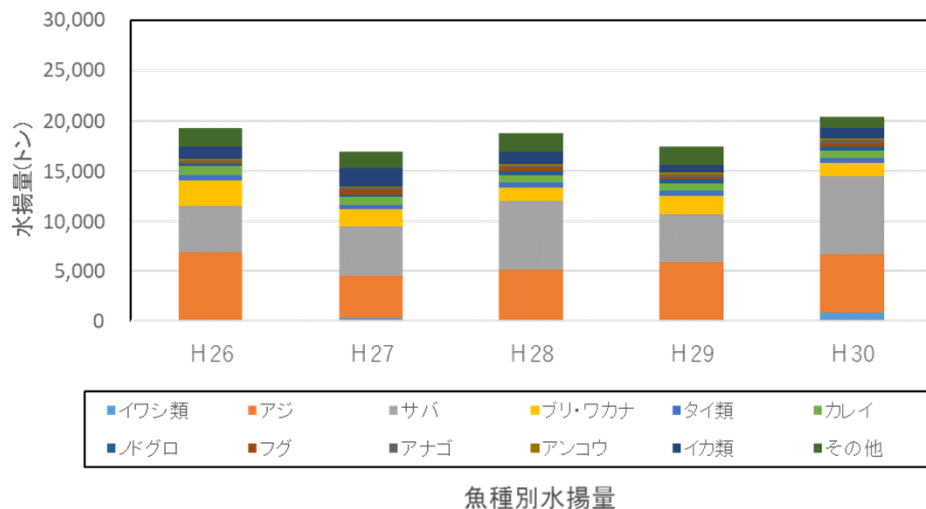
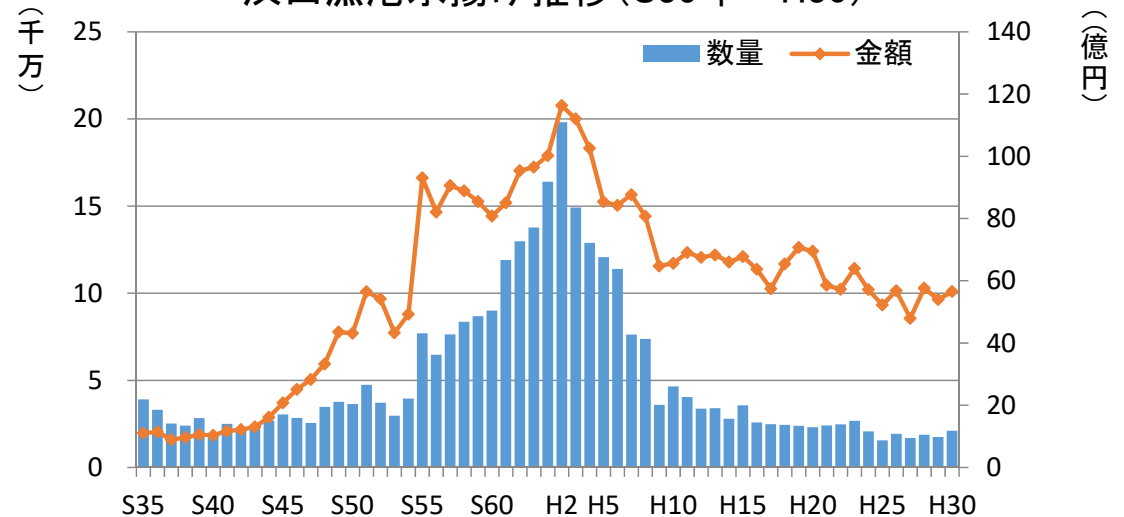
- 観光客のニーズは多様化しており、有名な観光地だけでなく、地域に眠っている「お宝観光資源」を精査し、その地域の観光商品として活用することが必要。
- 既存の観光事業者や団体・市民が連携した受入体制や観光施設の整備が必要。
- 観光客以外にも、イベントやシンポジウム等の開催、スポーツ文化合宿の誘致、ツーリズムや都市間交流による交流人口の拡大が必要。

現状と課題について(水産業)

(5) 浜田漁港の水揚動向

- 平成30年の水揚量は2.1万トン、金額が56.5億円で、平成2年をピーク(19.8万トン、116.3億円)にそれぞれ大幅に減少している。
- 減少の主要因はマイワシの減少だが、主要魚種は全体的に減少傾向。
- まき網(大中型・中型)が水揚量の約7割を占めており、また沖合底びき網は微増傾向。

浜田漁港水揚げ推移(S35年~H30)

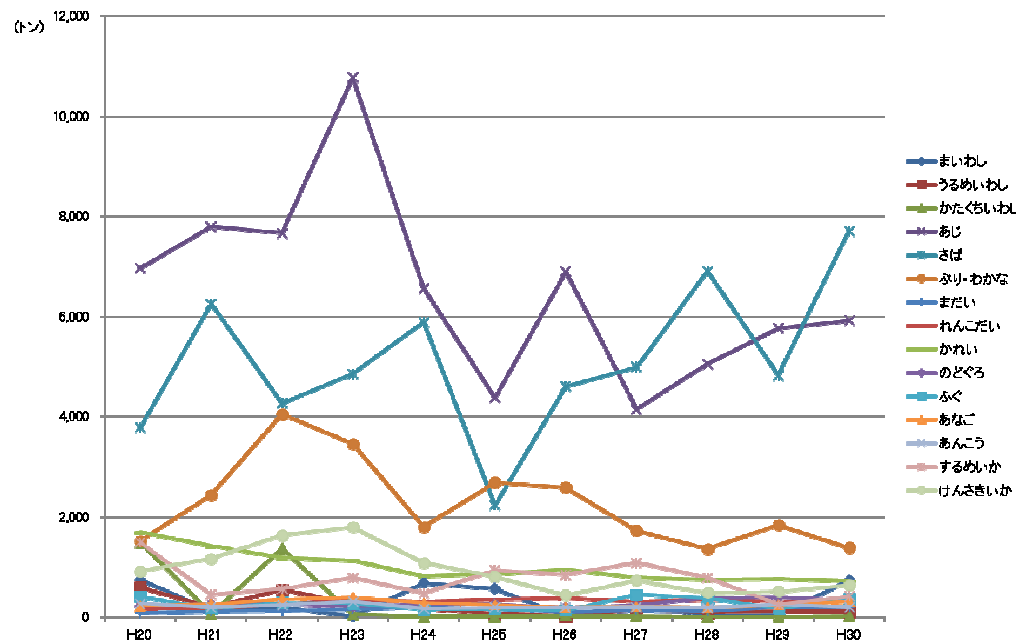


現状と課題について(水産業)

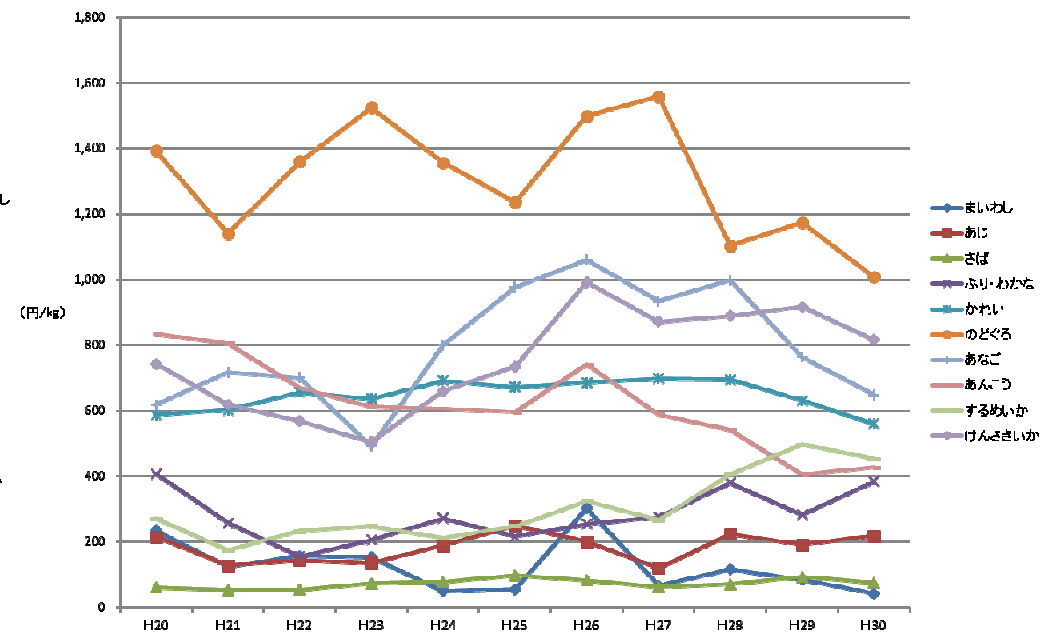
(6) 浜田漁港の主要魚種の動向

- マアジ、サバ類が水揚量全体の約6割を占める。10年前と比較して、主要魚種は全体的に減少傾向だが、サバやのどぐろなど増加も見られる。
- 一方、単価は横ばい状態で推移している。「どんちっち」ブランドの浸透等により、一部の魚種では価格の上昇もみられるが、魚価は低迷しており、水揚の維持とともに魚価向上も課題となっている。

主要魚種数量推移



主要魚種魚価推移



(7) 浜田市の水産業振興における主要施策【ソフト面】

【1】 基幹漁業の構造改革の推進

(1) 沖合底曳網漁船(5ヶ統)代船対策

- 漁業構造改革総合対策事業(国事業)・・・H25.4月から実証事業開始(1ヶ統)
- 浜田地域沖合底曳網漁業構造改革推進事業(県・市事業)・・・H24から事業化(4ヶ統)
 - ・構造改革実証事業 …国事業に準拠

(2) まき網漁船(2ヶ統)代船対策

- 代船対策は検討中

【2】 魚価の向上・魚食普及による販売力の強化

(1) 「山陰浜田港」ブランドの推進

- 「山陰浜田港」ブランドのPR(「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業)

(2) 水産ブランド「どんちっち」の推進(アジ・ノドグロ・カレイ)

- ブランド推進団体「浜田市水産物ブランド化戦略会議」

【3】 水揚拡大対策

(1) 外来船誘致活動の実施

- 浜田漁港活用推進事業・・・外来イカ釣り漁業団体等へ誘致活動

(2) 栽培漁業及び資源管理型漁業の推進

- 栽培漁業事業化促進事業・・・ヒラメの稚魚放流(事業主体:(公社)島根県水産振興協会)
- 水産資源確保対策事業・・・アワビ稚貝放流(事業主体:JFしまね浜田支所)

【4】 漁業後継者の育成・雇用の確保対策

(1) 若手及び新規漁業者確保対策

- 若者漁業者確保支援事業・・・学校新卒者または卒業後3年以内の若手漁業者の確保
- ふるさと漁業研修生育成事業・・・U・Iターン者対象
- 新規自営漁業者定着支援資金貸付制度・・・自営漁業希望者対象

(8) 浜田市の水産業振興における主要施策【ハード面】

【1】市場施設、設備等の整備

(1) 高度衛生管理型荷さばき所の整備

- 生産・流通機能の強化及び水産物の衛生管理の高度化に取り組む。
- 7号荷さばき所(まき網用)・・・平成32年4月供用開始予定
- 4号荷さばき所(沖底用)・・・平成34年度中供用開始予定

(2) 冷凍冷蔵庫の整備支援

- 整備を行う企業に対する支援を行い、水揚げ高の増加や水産物供給体制の充実を図る。
- 事業費に対して、国補助金(補助率が1/2以下の場合に限る)を除いた残りの事業費の5%相当額を支援する。

【2】漁港エリアの活性化対策

(1) 瀬戸ヶ島埋立地の活用

- 漁港区域内に整備された瀬戸ヶ島町の埋立地が活用されないまま遊休地となっている。
- 輸出も見据えた新たな水産加工事業としての活用を目指して、事業実施の核となる企業を探しているが、現在のところ見つからない。

(2) しまねお魚センターの活性化、公設水産物仲買売場のあり方の検討

- しまねお魚センターを取得し、老朽化した公設水産物仲買売場の機能を併せ持った市の施設として改修することにより、新たな賑わい施設として活用する。

(9) 浜田市の上位計画及び関連計画

■ 第2次総合振興計画（前期基本計画 平成28年～33年度）

- ・ 7つのまちづくり大綱を掲げ、そのうち「I 活力ある産業を育て、雇用をつくるまち」の中で、施策大綱の一つに「水産業の振興」を掲げる。また、既存産業とのネットワーク化をキーワードとした「観光・交流の推進」も重要な柱として位置付け。

■ 「元気な浜田」をつくるためのロードマップ

- ・ 第2次総合計画の7つのまちづくり大綱の中でも、特に重点的に取り組む項目や、その他の市政振興運営に係る重要な事項について行程を具体的に掲載。

【大項目】…「水産業の活性化」

【中項目】…「山陰浜田港水産物の販路拡大対策」、「高度衛生管理型荷さばき所整備」
「しまねお魚センターの活性化」、「漁港エリアの活性化対策(瀬戸ヶ島埋立地活用)」

■ 浜田地区 高度衛生管理基本計画

- ・ 水産物の高度な衛生管理を実現するための基本的な考え方や講ずる措置等を示した計画。
- ・ 陸揚げから搬出まで一貫した衛生管理を実施。

■ 浜の活力再生プラン（浜田地区）

- ・ 漁業所得の向上を通じた漁村地域の活性化を目指し、漁業者が主体となって5年間、具体的な取組を実行するための総合的な計画。
- ・ 関連する施策（補助事業等）の優先採択等が受けられる。

課題と地域資源

	課題(マイナス要因)	地域資源(プラス要因)
全般	<ul style="list-style-type: none">・<u>人口の減少、高齢化の進行</u> 生産年齢人口の減少(=「しごと」の場の減少)・<u>流入観光客の減少</u>・<u>賑わいの創出</u> 「ひと」を呼び込んで「しごと」をつくる。	<ul style="list-style-type: none">・浜田道等の整備による<u>大都市部からの交通アクセス</u>・周辺地域にも<u>点在する観光資源</u> (例)石見畳ヶ浦・国府海岸、石見海浜公園・アクアス、 伝統芸能石見神楽 等・「<u>はまごち</u>」や「<u>はまおく</u>」の取組・国際貿易港である<u>浜田港</u>
水産業	<ul style="list-style-type: none">・<u>所得の減少</u> 漁獲量・魚価の低迷による漁業者及び小 売り・水産加工等関連企業の所得の減少・<u>人材不足</u> 漁業をはじめ、水産加工業等の水産関係 者の減少・高齢化・後継者不足	<ul style="list-style-type: none">・<u>豊富な水産物と沖合の好漁場</u> (例)アジ、サバ、カレイ類、ノドグロ、イカ 等・<u>水産加工業の存在と水産加工品</u>・<u>どんちっちブランド</u>・「<u>浜田港四季の魚</u>」認証店制度・「高度衛生管理型荷捌所」整備による<u>安全で良質な水産物の提供</u>
その他	<ul style="list-style-type: none">・<u>交流人口の低迷</u> 豊富な水産物を活かした交流拠点としての、 「しまねお魚センター」への来訪者の減少	<ul style="list-style-type: none">・<u>しまねお魚センター(新たなPR施設)</u>・<u>瀬戸ヶ島埋立地</u>・<u>漁港内の静穏な水域</u>・<u>多くの釣り客</u>



「**地域資源**」を活用して「**課題**」を解決するための**活性化策**を考える